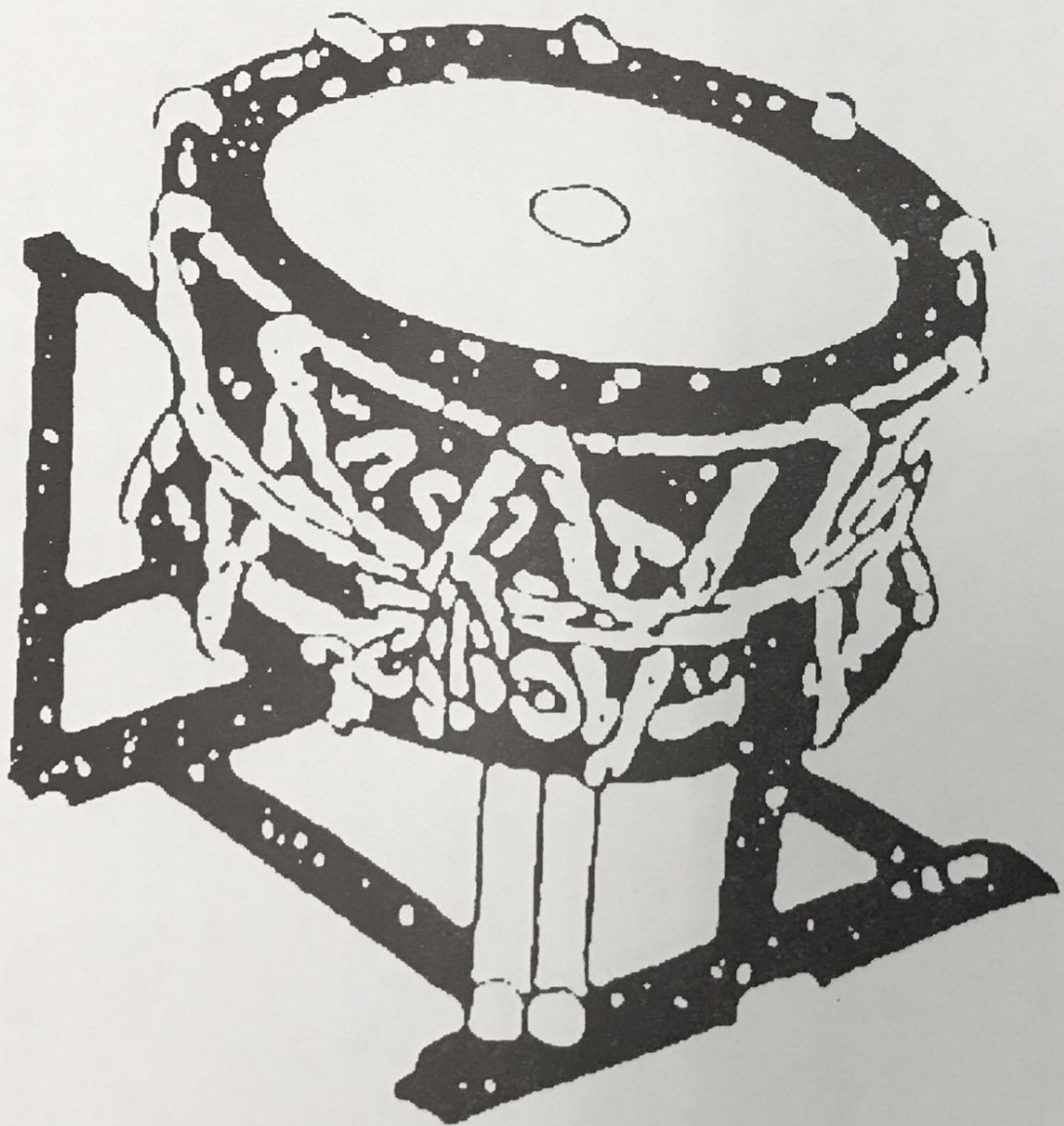


觀世流能樂太鼓

第四十五回

# 北陸清響會

平成三十年七月十五日〔日〕  
於 石川県立能樂堂



御招待・御來場歡迎  
ご自由にお入りください

ご挨拶

今年も、第四十五回の北陸清響会の発表会を開きます。年一回の会員の発表会です。今年も金沢能楽会と、次の各御社中のご賛助出演を頂き、誠に有難うございます。おかげさまで大変賑やかな会になりました。

シテ方「藪 俊彦師」御社中 笛方「吉野 晴夫師」御社中  
小鼓方「住駒 幸英師」御社中 笛方「江野 泉師」御社中  
大鼓方「飯嶋六之佐師」御社中 その他各御社中にご賛助頂きました。

しおり

〔枕 慈童〕 この度初めて、舞雛子の太鼓に挑戦なされます。八十歳は、とつくに越えられています。記念に「藪 克徳師」に舞って頂きます。

〔鞍馬天狗〕 この度初めて、舞雛子の太鼓に挑戦なされます。八十歳は、とつくに越えられています。記念に「藪 俊彦師」に舞って頂きます。

〔唐 船〕 日本に抑留された中国人に迎えに来た唐子二人。色々ともめました。日本に抑留された中国人に迎えに来た唐子二人。色々ともめました。日本に抑留された中国人に迎えに来た唐子二人。色々ともめました。ご自身の先生「島村 明宏師」に舞って頂きます。

〔遊行 柳〕 西行法師の歌に詠まれた老柳の精が、晩秋の陸奥、僧の念仏に、白髪の老人となって現れ報謝の舞を舞います。ご自身も九十歳越。ご自身の先生「渡邊 茂人師」に舞って頂きます。

〔當 麻〕 大和の国の當麻寺。中将姫が蓮の糸を染めて曼陀羅を織り、御本尊として祀られています。夢中に中将姫が現れ、舞を舞います。ご自身の先生「渡邊 荀之助師」に舞って頂きます。

〔龍 田〕 大和の国の龍田大社。株の僧が夜もすがら神前に仮寝して神の告げを待つ所に、社殿頻りに鳴動し壇の内より聲有りて、神体出現し給い、明神の起こりにつき説き、紅葉の謂れを語り、神楽を奏して草木国土の成就を寿ぎます。「黒瀬千鶴様」がお友達の、島村明宏師ご社中の「紋田恵美子様」に舞って頂き、お能を初めて努めます。お二人で龍田大社に参拝なされたご様子。好演を期待しましょう。

〔百萬 胡蝶 誓願寺 鶴飼〕 太鼓観世流の十五世宗家は「観世元信師」でござ健在ですが、老齢で舞台は休演。代わりに次期宗家の「観世元伯師」が能楽界の第一人者として舞台を勤めていました。去年の暮に癌で五十一歳で亡くなれました。まだお若く非常に残念です。我々北陸の四人の師範は、今回追善の意を込めて勤めます。

第四十五回

# 北陸清響會発表会

平成三十年七月十五日(日) 午前十時半始

〔番外独鼓〕

## 百萬

藪 俊彦

麦谷清一郎

〔舞雜子〕

## 枕慈童

藪 克徳

田中 一義  
住駒 俊介

俵 世婦  
矢郷由香子

## 鞍馬天狗

藪 俊彦

田中 一義  
住駒 幸英

岡田 睦子  
矢郷由香子

## 高砂

有本 順子

飯嶋 六之佐  
住駒 俊介

永井 規子  
山崎 嘉子

## 右近

八代 啓子

舛田 勇  
多田 順子

長野 裕  
山中 瑞穂

## 絃上

喜多 紀子

酒井 真里  
次郎間 臣子

村上 喜久男  
蔵 憲一

〔独鼓〕

## 藤

後藤 尚志  
大久保 惠  
前戸 鎮雄

堀松 常夫  
地謡 越田 常夫  
前田 巖

# 雲林院

〔舞雜子〕

岡田 睦子

飯嶋六之佐  
谷村 敦子

小柳 健二  
江野 泉

# 難波

駒谷かほる

田中 一義  
田中喜久江

中道 信子  
後藤 尚志

# 猩猩々

西村紀代子

田中 一義  
多田 順子

寺井 清正  
牧野維 禧子

〔連調〕

# 羽衣

高橋 駿斗  
朝井ひたき  
北 彩乃  
朝井まひわ

瀧 明日香  
朝井たしき  
西多 愛  
八木 幸乃

任田 隆子  
松田 若子  
福岡 聡子  
中道 信子

(こまつ歌舞伎未来塾・こまつ能楽教室)

# 巻絹

谷内多佳子  
黒川恵美子  
高原 和枝

堂 三郎  
白崎 辰治  
黒川 次郎  
前川 強

高間 国蔵  
佐藤 一郎  
松井 尚司

(観世流春江弘諷会)

# 西王母

〔舞雜子〕

今村 良栄

川原 善夫  
多田 順子

古田 敏明  
入口 紀子

# 雨月

中村 清

飯嶋六之佐  
住駒 俊介

小柳 和子  
中谷 浩子

# 船弁慶

木戸 玲子

飯嶋六之佐  
岡 明子

油谷加代美  
馬瀬 伊依

〔独鼓〕

# 葛城

松田 若子

手取屋節路

# 胡蝶

大溝 幸子

麦谷 暁夫

〔舞雜子〕

# 鉄輪

中瀬みさを

飯嶋六之佐  
中谷 浩子

竹中 浩三  
吉野 晴夫

# 融

土川 喜枝

田中 一義  
杉原 道子

任田 隆子  
谷村 敦子

〔独 鼓〕

# 養老

高橋 憲正

岩鍛治京子

# 邯鄲

高橋 右任

寺西 栄子

〔舞雜子〕

# 唐船

島村 明宏

飯嶋六之佐  
多田 順子

高木外美子  
室石 和夫

# 遊行柳

渡邊 茂人

飯嶋六之佐  
住駒 幸英

小西富士子  
室石 和夫

# 當麻

渡邊荀之助

飯嶋六之佐  
住駒 俊介

本 智恵子  
室石 和夫

〔番外独鼓〕

# 誓願寺

広島 克栄

飯森 友春

# 鶉飼

佐野 玄宜

大橋 紀美

能楽は、継承されている演劇としては世界最古で「世界無形遺産」に登録されています。能楽の、謡や、舞や、お囃子をお稽古することは、昔から盛んに行なわれています。

この清響会は、能楽お囃子の内の「太鼓」をお稽古している方の、年一回の発表会です。ベテランの方も、初心者もいらっしゃいますが、一生懸命に舞台を勤めます。

入場無料でございますので、どなたでもお誘いあわせお出で下さい。

是非能楽堂へお越しいただき、古典芸能に触れ、会員への応援をよろしく願います。

只今能楽堂は、隣の明治時代の建物が、国立近代美術館工芸館に移転整備中です。

駐車場が使えませんので、県営石引駐車場をご利用ください。

駐車券提示で、能楽堂で駐車料金の補助があります。

## 石川県立能楽堂

金沢市石引四丁目十八ノ三

☎〇七六一二六四二五九八 事務所

兼六園 護国神社 美術館と隣接

能楽観世流太鼓社中

## 北陸清響會

総経

菅谷 清一郎

菅谷 清一郎

連絡先 〒 九二三一〇九二六

石川県小松市龍助町八四番地

☎〇七六一二二一五八〇六

能楽喧嘩会のホームページ・検索下さい

北陸三県の謡曲古跡の案内

石川県加賀地方の里山逍遙記